

# 『一心千里』

永田 隆一

走って見れば、  
見えてくる



第124回

京都 青蓮院門跡の北

隣の粟田口を東へ少し歩くと、876年創建の粟田神社の入り口の坂道がある。それほど広くない境内には小さな祠(ほくら)がいくつもある。

祠の1つが出世恵美須神社。日本最古の寄木造りの恵美須像の笑顔が素敵だ。源九朗義経が牛若丸の幼名時代に、源家再興を祈願したとの言い伝えが残る。氏子さんたちが振る舞ってくれる甘酒は人心地つく。

粟田口から北へ、よく掃き清められた裏路地を10分歩いた。瓢箪の形に

板を繰り抜いた看板の店の暖簾をくぐる。近くの南禅寺に参拝す

しくおたの申します」「雅、僕には息子がいないから、自分の若いころ

## 企業も人も良い面を見直す 楽しいこと、嬉しいことも

人たちの休憩所として庵が結ばれたこの店は、創業400年になるという。冬のメニュー「うずらがゆ」を注文する。伏見の日本酒を熟燗で注文するのも忘れない。

「亮太さん、1年ぶりの無沙汰です。息子の雄介を鍛えていただいているようで、ありがとうございます。本年もよろ

「亮太さん、1年ぶりの無沙汰です。息子の雄介を鍛えていただいているようで、ありがとうございます。本年もよろ

「昨年はどういう年でしたか」振り返ると、1年はあつという間だね。仕事は順調、体調もよし。ただ、かつての仲間が元気を無くし始めているのが辛い」「どういっ

熱中できることがある連中は元気だ。しかし、企業に残ったままで60歳を超えた連中は、総じて元気がない」「仕事ができる人ほど、環境の変化を受け入れるのは難しいのかもしれない」。

「かつては50歳で、役員以外、全員定年退職だった。それが55歳へ延長になり、60歳になった。皆が50歳や55歳で全員退職していれば、元気を無くすことを感じる時間もなかったのかもしれない。そう考えることがあ

「よし、昨年楽しかったこと、嬉しかった出逢い、褒められて嬉しかったこと。雅から話して下さい」「おっと、話題を変えてまいりましたね。芸妓時代の先輩が、私たちが持っている知識と体験は大きな財産です。しかも、誰からも奪われることがない財産と話された。小さな寄り合いだったのですが、心が温かくなって、少し自信も出てきました「素敵ですね」。